



慶應義塾大学ビジネス・スクール

シーグラム株式会社

1995年3月、シーグラム株式会社の社長兼CEOでもあるエドガー・ブロンフマン・ジュニアは、MCAを松下電器産業から買収して、エンターテインメント事業に参入しようとしていた。同時に、その買収資金を、どのような方法で調達すべきかを検討していた。 10

ブロンフマン家¹

ブロンフマン家（姓はイディッシュ語（中・東欧およびアメリカのユダヤ人が用いるドイツ語の変種）で「ウイスキーマン」の意味）は19世紀末にロシアから難民としてカナダに上陸した。エドガー・ブロンフマン・ジュニアの祖父であったサミュエル・ブロンフマンは3人の兄弟とともに、マニトバでホテル事業を始めた。しかし、これらホテルは、実際には売春宿であった。サム・ブロンフマンは、1924年にトロントに会社を設立し、1928年には、カナダの醸造会社であったジョセフ・E. シーグラム&サンズを買収した。当時は、アメリカの禁酒時代であり、アメリカとの国境ビジネスが盛んに行われていた。サム・ブロンフマンは、ジョセフP. ケネディと同様に、酒の密造・密輸で財産を築き上げた。しかし、サム・ブロンフマンは、汚れた事業で財産を築いた成り上がり者とみなされたことや彼がユダヤ人であったことのために、1920～1930年代のカナダ社会では疎外され、「格」の高いMount Royal Clubへの加入も断られた。 20

長男のエドガー・ブロンフマンは父の事業を引き継いだ。1953年にはローブ (Loeb)家の女性と結婚した。ローブ家は、リーマン家、リュイゾーンズ家とともにユダヤ 25

¹ この節の多くは、次の資料によるものである。

Edward Klein, "Edgar Bets The House." *Vanity Fair* (July 1995), pp. 73, 81 and 129

このケースは、慶應義塾大学教授の鈴木貞彦が同大学院経営管理研究科でのクラス討議のために、公表資料にもとづいて作成したものである。このケースは経営の巧拙を例示するためのものではない。（1996年1月作成：1996年7月訂正）

Copyright © by Professor Sadahiko Suzuki of Graduate School of Business Administration, Keio University, Japan. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, used in a spreadsheet, or transmitted in any form or by any means - electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise - without the permission of the author. (Prepared in January 1996).